



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第106号 2018年3月14日 発行

発達障害児を取り巻く現状と今後の作業療法支援

発達障害支援部担当理事 安本 大樹



発達障害支援部スキルアップ研修会が1月21日に、雪が舞い寒風吹きすさむ中、医王病院を会場に開催され、48名もの多くの参加があった。その内、発達領域を専門としない作業療法士は33名と7割を占め、関心の強さが伺われた。本研修会は、平成29年度の事業計画には当初無いものであったが、急遽研修会を開催する運びとなった。まずはその開催の必要性の経緯や背景などをお伝えしたいと思う。

数年来より軽度発達障害児や重症心身障害児が医療専門機関を受診しリハビリテーション支援を受けている数が増加してきており、石川県においても同様の傾向を、日々臨床を通して強く感じている。支援を必要とする子どもたちが増加傾向にありながらも、県下では発達の遅れを持った子どもたちを専門的に支援する医療機関の数は少なく、また一部の地域に限られている為、専門機関から遠方に在住する子どもたちの一部は、近くの総合病院等での支援を受けている状況である。

このような中、発達領域を専門としない作業療法士の方々に発達障害領域での作業療法支援について学び、子どもたちが住む地域の病院等の実際の臨床場面で活用して頂き、作業療法士支援の一助となればという思いから企画された。

研修会の内容は、発達に遅れを持ち療育が必要な子どもたちに対しての評価から支援にいたるまでの作業療法技術、県下における発達障害児を取り巻く支援の現状や県士会員における特別支援教育領域への活動報告がなされた。今回は、初めての研修会であったため、具体的な技術支援など各論的な内容は少なかったが、子どもをみるために必要な評価項目、実際の支援実施の流れや母親等への支援方法を含めた重要性は学ぶ事ができたと思う。

最後に研修会後のアンケート結果から、発達領域を専門としない病院等での現状の要約と今後展望についてお伝えしたい。

既に小児のOTを実施している施設の中で、軽度発達障害の作業療法を実施しているのが21名と多く、「実施上困った事や悩んだ事で多かったのは？」の質問では、評価方法、次いで障害像の解釈だった。「軽度発達障害児・者の作業療法実施人数は増えてきているか？」については、多くが増えてきているとの回答であり、「今後作業療法を継続実施していく予定がほぼ全員であった。今回アンケートから精神科で作業療法を実施している中に、幼少時に軽度発達障害である成人の方が、私が思っていた以上に多かったように感じた。一方小児のOTを実施していない施設の中で、「今後発達障害児・者のOTの必要性は感じているか？」の問いに対しては、全員感じているとの回答だった。

作業療法は、対象者が年齢疾患に関わらず、生活モデルの視点に立ち生活上不利益が被るのであれば、それは作業療法の対象となると私は考えている。作業療法士にとり、対象者の背景情報は違えども、作業療法で人を見る視点は同じであり臨床応用性が高い支援方法である。今後、地域包括ケアシステムも見据え地域で子どもたちが安心して暮らせる為に、また地域で提供できる作業療法支援の構築向上の為に、県士会でも研修会、勉強会などを通して会員への支援活動を行っていききたい。

訪問リハビリテーションSwitch ～多様化するリハニーズに応えるために～ 開催

ケアパック石川 リハビリ訪問看護ステーション 石川 佳代

去る12月9日、10日の2日間、石川県リハビリテーションセンターにて、訪問リハビリテーション研修会が開催された。当研修会は、石川県3士会主催で、今年は「つなぐ」をテーマに研修会を開催され、訪問リハビリテーションに携わっているセラピストの他、病院や施設、行政などで勤務している方々など、県内の急性期～生活期の作業療法士、理学療法士、言語聴覚士61名が参加した。

1日目は、前半、株式会社かなえるリンク 作業療法士 関本充史先生より「地域資源の活用と創設」について、講義とグループワークを交え理解を深めた。後半は野々市市地域包括支援センター 寺尾朋美先生より「野々市市の地域資源とその取り組み」について説明を頂いた。

2日目は前半、同職種連携について 訪問リハビリテーション振興財団 理学療法士の露木昭彰先生を講師に迎え、講義とグループワークを交え学んだ。後半は松原病院自立就労支援センターいしびきの岡田千砂先生ほか、4名のセラピストより訪問リハ支援実践例を報告いただいたあと、シンポジウム、ディスカッションを行った。

今回の研修会を通して印象に残っていることを記したい。

「地域資源」に関しては、介護保険のサービス以外の、社会参加に繋がられる地域資源を探し、知ること、その情報共有の大切さを実感した。グループワークを通じて、地域の取り組みや、医療機関が運営している事業以外にも、企業が行っているサービスなど、日頃自身が使用・利用していることが地域資源になる可能性を感じた。地域資源を利用者に取り入れるために、情報の提供や、利用者本人に適しているかどうかなどの見極めなど、利用者や家族と関わる機会の多いセラピストの役割は大きいと感じた。

「同職種連携」に関しては、急性期、回復期、生活期と、どの分野にも共通していることとして、具体的な目標を設定し利用者の満足度や社会参加に繋げていくことの重要性を学んだ。未来逆算思考(バックキャストिंग)という、理想の未来から逆算し今からすべきことを発想する視点が紹介され、これは目標が明確化しやすく必要な視点だと感じた。利用者はやらされている活動レベルでは長続きしない。何のためにやっているのか明確化し、設定した目標を共有することで主体性が生まれ、生活の中の役割に繋がっていく。利用者に関わっていくうえで、目標を明確化し、生活全体を見通していくことを改めて見直し、利用者、同職種だけでなく他職種、地域資源ともよりよい連携を進めていきたいと感じた。

今回の研修会で学んだことを生かし、社会参加に繋げていくことをはじめとして、利用者への支援の幅を広げていきたいと思っている。



北陸三県合同MTDLP事例検討会に参加して

訪問看護ステーションリハケア 芦城 島方 治香

昨年より開始された北陸三県合同事例検討会が、平成29年12月2、3日の2日間にわたり福井県で開催された。事例検討会参加者は北陸三県合わせて43名で、内事例発表者は13事例であった。参加者の勤務先は6割が「医療(病院)」、4割が「介護(在宅)」で、身障分野が多数を占める中、少数ではあったが「精神分野」「発達分野」の参加や事例発表も行われた。

1日目の事例検討会は3会場に分かれ4、5事例ずつ行なわれた。グループ編制においては様々な分野の参加者が交えられており、活発な意見交換がなされた。

2日目は兵庫県リハビリテーション中央病院 柴田八衣子先生によるブラッシュアップ研修『こっそり教えませうOTのコツ～あげよう臨床力！つけようOTの知恵！～』が開催された。OTの臨床力をあげるコツは共感力、分析力、連携力にある。共感力は相手をよく見て、よく感じ、相手の立場に立った寄添いの姿勢を示し「この人だったら信頼できる」と感じてもらうことができる力である。これが意識下、無意識下にある意味ある生活行為を引き出す上で重要となる。分析力とは過去、現在から未来への時間軸の中で連続される作業遂行を人・環境・作業の視点から多面的に捉える力である。連携力とは対象者が抱える生活課題を本人、家族、地域住民など対象者の生活機能に影響を与える関係者を含む多職種協働で解決する力である。MTDLPにはその要素が全て含まれているという大変有意義な内容であった。

今回、2日間にわたる研修会に参加し、その人らしい作業の実現に向け、MTDLPを活用しOTプロセスを言語化、明確化し経験を重ね、OTの臨床力を磨き上げていくことの重要性を再認識することができた。



公立つるぎ病院 室野 晃徳

2017年12月2日に福井県で開催された北陸三県MTDLP合同事例検討会に、発表者として参加した。まず、MTDLPはプログラムや目標設定などの過程を詳しく表記できる事や自分の考えが整理できるツールとして優れていると思った。訪問リハの分野で働いている自分にとって、在宅での目標設定に悩むことが多い。本人はもちろん、家族や多職種との合意目標は重要であると思う。MTDLPは目標に向かう上で誰がどの場面で協力してもらえるのか明確になりやすいと感じた。事例との合意目標は「家族と九州への温泉旅行」であったため、多職種と協同して旅行の手引きの作成や、通所リハへ温泉を想定した入浴練習を行ってもらおう(訪問OTから事例介護サービス(特に同法人通所リハのOT及び介護職員)に依頼した。準備として不十分な点もあったが、無事に旅行を成功する事ができた。参加印象として発表者の多くが、活動・参加に焦点を当てた発表であった。家族、多職種に対してアプローチもしており、活動が途切れないように繋げていくための介入にも力を入れている事がわかった。

発表後は具体的なフィードバックも受ける事ができ、自分の作業療法について振り返りができる貴重な機会であった。今現在、北陸の地域では積雪から環境の変化によって活動量の低下や退院調整が困難になるなど、多くの課題が上がっている。このような時にこそ、課題に対して多くの協力や連携(リハ以外の介護サービスチームへの情報発信ならびに目標共有)が必要になるため、MTDLPを使用して目標に向かった介入ができれば良いと思った。

地域ケア会議および介護予防・日常生活支援事業人材育成研修会を開催して

健康福祉部担当理事 寺尾 朋美

平成30年1月28日(日)、石川県リハビリテーションセンターにおいて研修会を開催した。

まず初めに、東京家政大学学園運営室(健康科学部)清水順市先生より、平成30年度の介護報酬改定の概要も含めてご講義いただいた。

このような国の施策、方針等を理解したうえで、次に岡山県津山市役所 健康増進課 主幹(作業療法士)安本勝博先生から地域リハビリテーション活動支援事業の概要や取組みや介護予防、自立支援等について、非常に分かりやすくご講義いただいた。

また、お二人の講師は作業療法士が多職種とともに地域ケア会議等へ参加していくために抑えるべき基本的な心得は、①あいさつが大事②専門性を振りかざさない③エビデンスを一方向的に押しつけない④評論することは求められていない⑤主役は専門職ではない(主役は住民)、であることを研修が始まる前から、そして研修では具体例も交えてお話ししていた。社会人としても基本的なことである。

参加者のアンケートからは、分かりやすい学びの多い研修であったことに加え、自分がどのようにケア会議に臨んでいるか、改めて振り返る良い機会になったという感想が多かった。



「達人OTセミナー 脳卒中後上肢麻痺に対する作業療法の達人に学ぶ!」に参加して

恵寿総合病院 小川 正人

12月3日(日)石川県地場産業振興センターで達人OTセミナーが開催された。テーマは「作業に焦点を当てた課題志向型アプローチの実際」、講師は吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科准教授の竹林崇氏をお迎えした。著名な先生の講演を聞こうと、若手からベテランまで県内外合わせ47名の参加があった。

午前の講演ではヒトにとって「手」とは何か? 幸福感とは? 哲学的な問い掛けから始まり、脳の可塑性をCI療法による治療経過を示しながら明示し、上肢機能の予後についてプラトーは回復の終了ではなく、新たな課題に挑戦する時期であると説明された。一抹の不安を抱きながら脳卒中後の生活期の患者と関わってきた自分を勇気づけてくれる内容であった。

午後は上肢機能訓練における重要な3つのコンポーネント(①麻痺手に対する量的な訓練②課題指向型訓練③麻痺手に対する行動学的手法)について講演され、より実践的な内容となった。量的な訓練(麻痺手の適切な使用)は非損傷半球から損傷半球への過剰抑制を是正し麻痺手のパフォーマンス低下を予防する。課題指向型訓練は、適度な報酬(目標=意味のある作業)が学習性無力感を減らし主体的な訓練を継続させるとし、行動を変容させるための目標設定の方法や訓練難度の調整、教示とタイミングなど細かく指導された。行動学的手法(transfer-package)は②で獲得した練習効果を生活に移転するための戦略であるが、セルフモニタリングの技法や問題解決技法を具体的に説明して下さり解り易く理解できた。

最後に竹林先生が療法士が過度に関わり効果を得ると、対象者は受動的な訓練にしか価値を見い出せなくなる。主体的に成功体験をつませる為にも療法士はあくまで黒子に徹するべきと見解を述べられたのが印象的であった。

今回学んだことは、上肢麻痺の機能練習に留まらず行動変容を必要とする様々な分野、対象者に応用できると思われる。臨床場面に生かしていきたい。



「認知症アップデート研修会」を開催して

認知症対応委員会委員長 岡田 千砂(自立就労支援センターいしびき)

12月16日に「認知症アップデート研修会」を金沢リハビリテーションアカデミーにて開催した。この研修会の目的は、地域・介護・医療どの領域においても認知症に対応できる作業療法士を確保するために、認知症に関する最新、かつ最低限の知識を習得するものである。

毎年日本作業療法士協会主催で行われる認知症作業療法推進会議にて、各都道府県から選出された認知症作業療法推進委員が集まり、最新の情報や他県の取組の情報交換を行い、情報伝達の講習会としてこのアップデート研修会が位置付けられている。

今回のアップデート研修会の参加者は80名であり、身障、老年期、精神、小児、地域と各分野の若手からベテランのOTが参加した。

終了後のアンケートでは、日頃認知症の方と向き合っているOTにとっては、再確認の内容も多かったようだが、基礎的な内容を改めて勉強しなおす良い機会になったとの声が多かった。



県士会のアクティベーション

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗

(一社)日本作業療法士協会47委員会における平成30年度モデル事業に応募し、先頃採択された旨の連絡を頂いた。昨秋、応募を決めてから非常に短い期間で応募準備を頂いた理事・委員の方に深くお礼申し上げる。募集されたテーマは「作業療法士を目指す人材の確保に関する取り組み」であり、当会の応募事業名は『「作業療法士の働き方を伝える」教育支援プラットフォーム事業』である。

現在県内には作業療法士養成校が4校ある。これらの養成校での作業療法士志願者は決して芳しいものとは言えないと聞いている。また定員を満たす、満たさないというレベルでなく、作業療法士の魅力を広く伝え、より優秀な学生に志願して頂きたいと願っている。この為の人材確保の取り組みを、高校生に限らず小学生の段階から取り組んで行こうという内容である。

さて、このモデル事業に応募したのは、もう一つ目的がある。当会はこれまで、熱血漢溢れる先輩方のリードの元、全国にも響き渡るようなエネルギーな活動をしてきた会である。この高いエネルギーを保ち続けるため、会員一同、一つの事業に取り組んでいきたいという目的である。ご承知の通り、今年度から高校生のなごやか体験をリニューアルした。また、現場見学も新しい形に模様替えした。今年度はテスト的な開催であったが、次年度以降は取り組みを拡大していきたいと考えている。その為には、各支部の会員の皆さんの協力は不可欠である。モデル事業共々、次世代を担う作業療法士の発掘に取り組んで参りましょう。

次世代の作業療法士の確保もさることながら、作業療法士を目指す学生への支援も重要な義務である。一番大きなものは、臨床実習への協力になる。この臨床実習の在り方が問われていることを皆さんはすでにご承知であると思う。大きなアウトラインとして、「臨床参加型実習」が推奨されることとなる。また、実習指導者は5年以上の臨床経験を有し、かつ、指定講習会を受講した者となる。施設に1名存在すれば良いというものではなく、両方の基準を満たす者のみが指導に当たれることになる。指定講習会についてもいくつかのガイドラインが示される様で、1講習会の受講人数の制限や、講師の人数など細かに定められる様である。この制度改革は大きな課題が予想される。果たしてどれだけの会員が指導者認定を受けるかである。指導者がいなければ、学生の臨床実習が滞る。これは、先に作業療法士になった者として見逃せない事である。どなたも、学生時代臨床実習を受け、指導者のお世話になったはずである。有効な経験年数を有する会員は是非というよりは、必ず、講習会を受講し後輩育成に協力して頂きたい。

指定講習会は養成校が主催開催することが認められない方向である。指導者に対する利害関係を除する為である。ある程度の公共性が求められる開催となる。また、1講習会の受講者が限られることから多くの開催が必要で、これらの事を鑑みると会と養成校で何らかの協力体制が必要になると考えられる。当会としては養成校と相談しながら、協力体制を整備していきたい。

原稿をまとめる間に、診療報酬・介護報酬改定の大筋が明らかになってきた。各会員におかれては自身の置かれている施設関係の動向は最低限把握頂きたい。この種の問題を職場の上役だけに任せてしまっていないだろうか。個々人がしっかり制度を理解し、可能ならば関係する前後の動向(例えば回復期の方であれば急性期や維持期、そして介護報酬)まで把握して4月以降の業務に備えて頂きたい。その中で、作業療法士としての役割を、働く施設の内外に提示し、改定後の業務の中で存在感をアピール頂きたい。なお、会では3月24日(土)に関連研修会を開催する。自身で理解するために管理職云々の立場を超えて参加頂きたいと思っている。

東海北陸ブロック リーダー研修会に参加報告

平成29年10月14～15日、三重県にて東海北陸ブロックリーダー研修会が開催され、県士会より諫山氏、菊池氏、西村氏、苗山氏、永井が参加した。

【講義】 金沢医療こども福祉センター：諫山哲規

日本作業療法士協会理事 株式会社かなえるリンク 株式会社東京リハビリテーションサービス 谷隆博先生の講義では、「リーダー論」「組織マネジメント」「他職種連携」「部下の育成」という内容を通して個人と組織の関係、マネジメントとリーダーシップの関係、そして組織運営を行う上で成果としての地域社会への貢献に繋げていく意義を学んだ。

また、経営に携わる立場からは、リスク管理や営業力・マーケティング、他職種へのマネジメントなど私たち作業療法士がこれから社会に選ばれる為には、社会的要望に対応でき、自分達にしか出来ない事を発信し、専門職としてのアドバンテージを伝えていく事の大切さを教えて頂いた。

【グループワーク：職場のマネジメント】 片山津温泉丘の上病院：西村幸盛

初日の講演の後には東海北陸各県の参加者が一つのグループになり、それぞれの職場や協会での取り組みにおける様々な課題のうち、予め絞られたテーマについてKJ法を用い、現状や意見、思いなどを類似性や共通性のあるものに分類し、新たなアイデアや意味や価値を見出した。

自分のグループでは「組織作り」と「教育(後輩育成)」について話し合われた。直前の講演でも取り上げられたモチベーションマネジメントが双方の課題に共通して重要であり、さらに教育・育成のためには具体的な手法や環境づくりが求められることを確認した。最終的に『OTが「育つ」＝「ひと」を知る』に至ったこと自体に深い意味を持つと感じた。

【グループワーク：各県士会ごとのディスカッション】 恵寿総合病院：永井亜希子

二日目のグループワークは、各県士会ごとに別れてグループディスカッションを行った。検討課題は今年の研修会で作成したアクションプランの実行状況を評価し、再考する課題であった。去年は“10年後も輝き続ける為に必要とされる存在にならなければ！”の表題で話し合われたため、今年はそれをどのように実行するか具体的に話し合った。

今回、5W1Hで話しあい、How：フェア等の中で『見える化を』を図る。

Who：その地域のOT、What：DVD（OT協会が新しく出したDVDの利用）、When：フェアの開催時期、Where：フェアや一般セミナー という案を考えた。

時間が非常に短く、大まかではあるが、これらの意見を導き出すことで、今後も輝き続ける為に必要なアクションではないかという意見に至った。

【懇親会(会場：毎日が浜焼きバーベキュー)】 金沢大学 保健学科：菊池ゆひ

四日市名物の大あさりの浜焼きを食しながら、研修会での報告内容を踏まえ、県士会運営に普段どのような立場で関わっているかなど、個人個人で情報交換を行った。「県士会運営」という共通テーマを持ちつつ、かしこまらずに意見交換ができた懇親会は、他県士会を知り、石川県作業療法士会の中での自身の立場を振り返ることができる非常に有意義な会であった。余談だが、後日、県外の研修会に参加し、リーダー養成研修会で知り合った方の紹介で新たな人脈を得ることができた。今回の研修会に派遣され、他県士会員とのつながりが県士会運営にも大切であることを、身を持って経験することができた。



【最後に】 公立つぎ病院：苗山卓弘、恵寿総合病院：永井亜希子

今回、初の顔合わせであったが、短い時間の中で、10年後の石川県作業療法士会が輝き続けていくために、いろいろと話し合いを重ね、有意義な時間を過ごすことができた。また、リーダーとして必要な行動力、後輩を育てる環境づくりの重要性など改めて勉強させて頂いた。今回話し合われたことや得た知識を踏まえ、リーダー的役割を果たし、必要とされる存在になれるよう、日々精進したい。



各支部支援活動状況

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

MTDLP事例検討会が1月11日、木島病院にて開催された。参加者は34名で会場の木島病院のOTの参加が多かった。来年度も会場をその都度変更し、会場付近のOTの参加を促していきたい。また、2月3日には研修会・事例検討会が金大病院にて開催され、金沢大学の中嶋氏に脳内のネットワークの機能かつ障害による症状について非常に興味深く学ばせていただいた。来年度の東支部は定例の事例検討会等に加え、踊り流しも担当となるため、様々なところで広く参加者を集めていきたい。



金沢西支部

公立つるぎ病院 苗山 卓弘

1月27日(土)に金沢脳神経外科病院にて研修会と第3回事例検討会を開催した。研修会では39名が参加し金城大学の川口朋子氏を招き『転倒予防最前線』と題し、転倒を防ぐための評価用紙の紹介など臨床で講義後直ぐに活用できるように講義して頂いた。今回も昨年同様にお子様連れでも参加できるよう別室を設け4組の参加があった。質疑応答では各病院での転倒に対してどのような取り組みが行われているかを聞くことができ参考になった。事例検討会では5事例の発表があり活発な意見交換ができた。来年度も研修会ではお子様連れでも参加できるよう会場を設ける予定であるため、多くの参加を期待する。

能登支部

恵寿総合病院 永井亜希子

平成30年2月3日4日に、能登小牧台にて能登支部研修会を開催した。講師に東川会長をお招きし、「作業療法臨床教育を考える」をテーマに2部構成で3時間の講演をしていただいた。前半は、現在の実習に来る学生は“ゆとり世代を経験している”事を踏まえた指導のコツや、先生が実際にされている実習の試みなど具体的に講義をして頂いた。後半は、新卒者教育について講義され、コンピテンシーモデルの試用した報告も聞かせていただき、最後に臨床実習指導内容や指導者に対しても今後、大きく変わるお話しがあった。これは早くて平成33年の臨床実習より変わるかもしれない、とお話しがあり、後輩育成のために、指導者としてしっかりと備えておく必要を感じた。



翌日は同じ場所で、事例検討会を行い、11演題の発表があった。日頃の臨床で工夫されたことや、QOL拡大に向けた関わりなど興味深い発表が多くあった。参加者は38名あり、発表に対し、多くの方から質疑が飛び交い、充実した事例検討会となった。

加賀支部

加賀こころの病院 荻野 大樹

12月13日に加賀市医療センターにて加賀支部第1回MTDLP事例検討会を開催した。参加者は26名で、急性期病棟におけるMTDLPを用いた1事例とMTDLP書き方研修の伝達講習を行った。事例検討では急性期病棟での短期間の介入の中で、家族を含めた包括的なマネジメントが必要な事例が報告され、対象者への支援のみでなく、家族支援に対する他施設での様々な取り組みについて、グループ内で活発な意見交換が行われた。

MTDLP書き方研修では今後の生活を見据えた合意形成の大切さ、本人が主体的に生活できるよう包括的なマネジメントの重要性を再確認した。今後もMTDLP事例報告会の開催を予定している。より多くの会員がMTDLPを活用し、その実践の様子を報告できるようサポートしていきたいと考える。

平成29年度 公益社団法人石川県作業療法士会 ◆◆◆第5回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日 時：平成30年1月30日(火) 19:00～21:30
2. 場 所：西泉事務所
3. 出席者：東川、寺田、岡田、麦井、安本、大西、明福、村田、小池、渡邊、高多、川上、米田、桂、白山(理事15名)、堀江、西村、永井(支部長3名)、山本詩、山下(書記2名)
欠席者：寺尾、河野、中森(理事3名)、苗山(支部長1名)
4. 議事
正会員数：777名(平成30年1月30日現在) 強制退会者：3名 **承認**
第1号議案：各部・委員会・各支部事業経過報告について。
【学術部】石川県作業療法学会学会長及び石川県作業療法学術雑誌査読者の選考基準案について堀江部長より説明。
承認
【事業部】平成30年度日本OT協会作業療法推進モデル事業に採択されたことを受けて、米田理事より今後の活動予定等について説明。
【広報部】県士会広報誌を新たに発行する案について白山広報担当理事より説明。 **承認**
【認知症対応委員会】認知症支援チーム対象の研修会について大西理事より日本OT協会生涯教育制度への登録を提案。 **承認**
第2号議案：平成30年度予算について安本理事より説明。会議費・日当費を1時間単位で支給する旨の規程改訂について、次回理事会にて承認予定。

平成30年度会費納入についてのお知らせ

!! 今回より会費が変更となります !!

- ・石川県作業療法士会年会費：8,000円
- ・4月以降に県士会へ新規入会の場合：入会費5,000円＋年会費8,000円 ⇒ 計13,000円
- 【納入期間】平成30年4月1日～平成30年4月末日(期間厳守でお願いいたします)
- 【納入先】
 - 北國銀行 野田支店 普通 260902
公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川哲朗
 - 郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会
ネットバンキングの場合：ゆうちょ銀行 当座預金 支店079 口座番号0022369

職場変更・自宅住所変更がある場合は届出もお忘れなく!!

県士会ホームページ(<http://www.ishikawa-ot.com>)より
『会員の皆様へ』(スマホの場合は右上のメニュー) → 『入会・異動・退会手続き方法』へ

お問い合わせ先(公社)石川県作業療法士会 事務局 山下
jimu-n@ishikawa-ot.com FAX: 076-259-0681

インフォメーション

石川県作業療法士会 広報誌 表題募集のお知らせ

平成30年7月に第1号の広報誌を発刊する予定となっています。

県士会員より表題を募集し、採用者には、5月の総会にて記念品を贈呈致します。

広報誌は、広く石川県民のみなさんに作業療法士の活動を知っていただくために、県士会ニュースとは別に発刊を計画しており、親しまれる素敵な表題をお待ちしています。

応募方法：メールにて受付いたします。①表題名②所属③氏名を記入し、平成30年4月2日までにお申し込みください。送り先：t.shira@knh.or.jp 金沢西病院 白山武志までお願い致します。

診療報酬・介護報酬改定研修会

日時：3月24日(土) 13時受付

13時30分～17時

場所：金城大学医療健康学部1階
H104大講義室

平成30年度

公益社団法人 石川県作業療法士会

総会

～表彰式・新人歓迎会～

日程：5月19日(土)

場所：KKRホテル金沢

KINJO

UNIVERSITY

きみに、見せたい未来がある。

金城大学
社会福祉学部
社会福祉学科
子ども福祉学科
平成30(2018)年4月開設予定
(設置計画中、教職課程認定申請中)

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

大学院
総合リハビリテーション学専攻
総合リハビリテーション学専攻(修士課程)

金城大学 医療健康学部 理学療法学科・作業療法学科
◆平成28年度 理学療法士国家試験、作業療法士国家試験合格率100%
◆理学療法学科 第一期卒業生から7年連続100%の高い就職実績!
◆作業療法学科 第一期生(平成29年3月卒業)の就職率は100%を達成!

金城大学
TEL:0120-276-150 E-mail: nyushi@kinjo.ac.jp
FAX:076-275-5319
http://www.kinjo.ac.jp/ku/

在宅ならではの
深い関わりが持てる!!
「退院後の人生を支えたい」
そんな想いで介護の業界に入
りました。お客様とじっくり
関われる今の環境にやりがい
を感じています。

ディサービス 太田のリゾート白山
管理者(作業療法士) 中富 博久

↓こちらの事業所で募集中です↓

金沢市、野々市市、白山市の
◆ディサービス ◆訪問リハビリ(有料老人ホーム内勤務)

正社員 月給…270,000円～、時間…8:30～17:30 または 9:00～18:00
休日…週休2日(シフト制)、賞与年2回、社会保険完備、退職金あり

パート 時給…2,000円～、時間…1日2時間以上
勤務…1ヶ月の勤務回数店相談、労災あり ※時間に応じて雇用保険・社会保険加入

共通 昇給年1回、交通費あり、各種資格手当、日/祝出勤手当、OJT制度

株式会社 サンウェルズ
SUNWELLS GROUP
金沢市、白石市を中心に16ヶ所の介護施設を運営しています。
<お問合せ> 株式会社サンウェルズ本社 人事部：東(ひがし)
☎076-272-8982

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

栗津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生会えんやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会

医療法人社団輪生会
医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

医療法人社団あいずみクリニック
有限会社さわやか金沢

会員動向

石川県作業療法士会会員 777名(平成30年2月現在)
認定作業療法士 29名(平成30年2月現在)
専門作業療法士 福祉用具2名 高次脳機能障害1名 認知症1名 手外科1名(平成30年2月現在)



編集後記

以前読んだ本の話。「怖いリンゴの絵を描け」という課題を出すと、殆ど全員が「怖い顔のリンゴ」を描いた。そこで「リンゴに顔を描くな」と付け加えると、墓場にポツンと置かれたリンゴや、不気味な液体が出ているリンゴなど、様々なアイデアが出てきた。自由な環境よりも「制約」が創意工夫を生み、より優れた物を生み出すということ。来年度より、我が県士会から広報誌が発行される。限られた中で創意工夫し、他に無い広報誌を目指したい。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：米田貢、明福真理子、白山武志、酒野直樹、横川茉美、杉浦有子、藤田隆司、川口朋子、
寺井利夫、太田哲生、寺嶋翔子、臼田明莉、中川雅崇、越仲共子、山梨珠美

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社